

【食の安全安心の確保】

○成果指標（安全安心）

第2次食の安全安心・食育推進計画成果指標
(食の安全安心の確保分野)

到達度凡例	
平成24年度比	矢印
目標値超	↑
上昇	↗
維持	→
下降	↘

①②③④は「不安を感じる市民の割合」のため、値が下がるほど目標値達成に近づくという評価になる
H30目標値の欄の ※の値は、H27年度の中間評価の際に目標値を上方修正して再設定した値。()内は元の目標値。

No.	項目	H24 基準値	H27 中間値	H30 実績	H30 目標値	到達度(H24 比)
①	「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	55.7%	44.4%	48.6%	※40% (50%)	↗
②	「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	63.3%	54.1%	54.7%	※40% (50%)	↗
③	「食品の不正(偽装)表示」について不安を感じる市民の割合	51.6%	55.3%	44.0%	40%	↗
④	「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	65.2%	56.6%	55.8%	※40% (50%)	↗
⑤	食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合	8.9%	6.5%	7.5%	15%	↘
⑥	食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合	40.2%	42.3%	34.6%	55%	↘
⑦	食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合	—	59.1%	63.7%	※65% (50%)	↗ (H27比)
⑧	食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	—	61.3%	60.5%	75%	↘
⑨	食の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.6%	62.6%	53.0%	60%	↗

第2次計画 成果指標の検証

○計画の成果指標9項目のうち、「残留農薬」、「食品添加物」、「食品の不正(偽装)表示」、「輸入食品」に対する不安感に関する4項目と、「食品について安全性が高まってきていると感じている市民の割合」及び「食の安全性に関する知識があると思う市民の割合」の6項目に成果が見られました。

○ほとんどの成果指標(9項目中6項目で改善)において、計画策定当初と比較すると改善は見られたため、第2次推進計画の方向性等は妥当であったと思われます。なお、改善が見られなかった市民の意識行動に関する指標に関しては、更なるリスクコミュニケーションの充実を図ることで改善が期待できると思われます。

○第3次推進計画策定にあたっては、第2次推進計画で取り組んできた施策の方向性を維持しつつ、目標達成のための追加・強化すべき事項を検討して計画に反映させることが重要であり、食品等事業者の「熊本市食品自主衛生管理評価事業」を活用したHACCP(ハサップ)導入支援の強化や市民への食品の安全性に関する情報を更に分かり易く・正確で迅速に提供できるように努めるなど、取組の強化・充実を図っていく必要があると考えます。

【食育の推進】

○成果指標（食育の推進）

第2次食の安全安心・食育推進計画成果指標 (食育の推進分野)

到達度凡例	
平成24年度比	矢印
目標値超	↑
上昇	↗
維持	→
下降	↘

*H29実績値

No.	項目	H24 基準値	H27 中間値	H30 実績	H30 目標値	到達度 (H24比)	
①	食育に関心がある市民の割合	73.4%	69.1%	77.1%	90%	↗	
②	「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数の増加」 ※1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数	10回	10回	9回	さらに増加	↘	
③	1週間あたりの朝食について ※幼児は「毎日食べる割合」 ※他は「ほとんど食べない」と答えた割合	幼児	95.3%	96.2%	97.3%	100%	↗
		小学5年生	0.9%	0.9%	1.7%	0%	↘
		中学2年生	2.0%	2.6%	4.2%	0%	↘
		20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	15%	↗
		30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	15%	↗
		65歳以上	3.7%	1.8%	3.4%	0%	↗
④	体験型食育活動の取り組み（実施園数/全施設数） 【保育園】	公立	100%	100%	*100%	100%	↑
		私立	90.4%	94.8%	*87.2%		↘
⑤	体験型食育活動の取り組み（実施園数/全施設数） 【幼稚園】	公立	100%	100%	*100%	100%	↑
		私立	100%	100%	*100%		↑
⑥	授業参観・懇談会等で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合	97.0%	98.5%	*94.0%	100%	↘	
⑦	企業、大学等での食育に関する講座の開催（件数）	19件	40件	*20件	30件	↗	
⑧	栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	69.0%	67.9%	63.4%	80%	↘	
⑨	内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な運動、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合	27.7%	32.1%	34.2%	50%	↗	
⑩	食育の推進に関するボランティア数	1,208人	1,410人	*1,536人	1,600人	↗	
⑪	食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合	52.9%	57.1%	58.3%	65%	↗	
⑫	「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合	37.6%	62.7%	*62.6%	60%	↑	
⑬	農林漁業体験を経験した市民の割合の増加	37.7%	27.5%	32.5%	50%	↘	
⑭	進んで地元農産物を購入する市民の割合	69.4%	68.3%	73.8%	80%	↗	
⑮	学校給食における地元農産物を使用する品目数	39品目	40品目	*33品目	45品目	↘	
⑯	家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	49.2%	45.5%	69.9%	70%	↗	
⑰	ごみを少なくするため「買すぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけている市民の割合	69.9%	66.9%	74.6%	75%	↗	
⑱	熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	80.8%	81.8%	80.7%	85%	↘	

参考：⑥授業参観・懇談会で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合
《旧成果指標および目標》H24（48.5%）H27（46.7%）目標値H30（60%）

第2次計画 成果指標の検証

○成果指標18項目のうち、「食育への関心」、「幼稚園での体験型食育活動」、「企業、大学等での食育講座の開催」、「内臓脂肪症候群予防のための実践」、「食育推進ボランティアの人数」、「食生活でのくまもとらしさを感じる市民」、「子どもの食育推進ネットワークでの連携数」、「地産地消の推進」、「家庭で郷土料理を取り入れる市民」、「食品ごみの削減への心がけ」の10項目に成果が見られました。

○一方で、成果指標から見える課題として、「朝食の欠食」、「栄養成分表示を参考にしている市民の割合」では、目標値の達成ができず継続した取組の必要性があります。また「内臓脂肪症候群の予防や改善のための適切な生活習慣の実践」では、全体的には改善はみられたものの、若い世代では落ち込んでおり、若者をターゲットにした、健全な食生活の実践やそれを支える食環境整備などについて取組を充実していく必要があると考えます。

○第3次計画では、国の第3次食育推進計画のテーマである「実践の環を広げよう」を踏まえて、生活習慣病予防と重症化予防のために、望ましい食習慣の定着に向けて「ライフステージに応じた間断のない食育」、「自然に健康になれる食環境づくり」、「豊かな人間性を育むために『共食』」の取組を行います。特に、健康無(低)関心層の若い世代への取組を強化し、食に関する知識を次世代に繋げる取組を行います。

○さらに、熊本地震の経験を踏まえて、さまざまな災害に備えた食育に推進に努めます。